

## 「みんなの食堂」オープンに向けて ～より充実させるために人が集まるみんなの食堂について研究しよう～

希望の丘はだの 濱田 優子 丸山 信子 菅生 則夫  
茂泉 和歌子 林 亜弥 宮越 智 矢野 佑  
秦野精華園 瀬戸 武 田中 祐介

### 1.活動内容

地域貢献、ともに生きる社会の実現を目指しての取り組みとして、子どもや高齢者、誰もが利用し、交流することのできる「みんなの食堂」の開設を目指し、様々な団体で実施しているみんなの食堂の見学や、子どもから高齢者までが集まりやすい場となる手立てを研究しようというのが始まりである。

### 2.子ども食堂とは

子ども食堂とは、地域住民や自治体が主体となり、無料または低価格で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場だ。単に「子どもたちの食事提供の場」としてだけでなく、帰りが遅い会社員、家事をする時間のない家族などが集まって食事をとることも可能だ。このように、「人が多く集まる場所」ができたことで、地域住民のコミュニケーションの場として機能したのである。子ども食堂は、民間発の自主的、自発的な取り組みから始まったのである。

### 3.子ども食堂が始まったきっかけは

子ども食堂は、東京都大田区にある八百屋の店主が2012年に始めたことがきっかけである。朝ごはんや晩ごはんを十分に食べることができない子どもたちがいることを知った八百屋の店主が、自ら始めたのである。その活動を知った東京都豊島区の子ども支援をしていた団体のメンバーが活動に取り入れたことで、瞬く間に全国に活動の輪が広がった。

### 4.開催場所

開催場所として「旧ラポールセイカ棟」を想定した。秦野精華園内、通所食堂も候補だったが、外部からのお客さんの出入りやセキュリティ上の問題もあり、旧ラポールセイカ棟で話を進めていくことになった。

### 5.コロナ禍前の見学

令和元年度、永井前園長を中心に町田市にある「ふくちゃん食堂」、横浜市旭区にある「白根学園ぶどうの実」の見学をした。そこから現実的に話が動いていくのである。

### 6.職員研究援助事業活動 「みんなの食堂」スタート

取り組むにあたって、まずは何から検討するのか、検討事項を羅列した。一例を紹介する。

- ①どんなみんなの食堂にしたいか  
地域の繋がりを作る。子どもから高齢者までの交流の場。
- ②参加対象者の設定  
年齢問わず、子どもから高齢者まで障がい問わず。(小学6年生までは親同伴)
- ③月何回、何曜日、何時にするか  
月1回、第○金曜日、17時～毎月固定(案)。  
また朝食提供「みんなの食堂」・土日の昼食を兼ねた食堂といった案もあがる。

## 令和2年度 研究活動援助事業①

### ④料金設定はどうするか

大人300円、子ども100円。(無料だと逆にみんなから冷やかされてしまう可能性がある)

### ⑤申し込み制にするか

事前予約として前月1～10日電話予約。定員超えたら抽選。

### ⑥店名は「みんなの食堂」であるのか

「みんな…」の由来は、こども限定ではないという意味である。

### ⑦メインの食事はどうするか

「カレーライス」。秦野精華園厨房にて調理した物を運び、温めなおしくらいは可とした。カレーライスといっても、チキン・ビーフ・ポーク・キーマ・うどん…種類は無限大に広がる。何よりもみんな大好きだから。

### ⑧食物アレルギー食については

献立、食材の提示により確認してもらうようにしようと考えた。

### ⑨MT フード(当園の調理業者)との打ち合わせ

月1回利用者提供と同じメニューで対応可能。食器はコロナ禍もあり、使い捨て。

### ⑩食事以外のサービス提供

2階を過ぎしの場として、卓球、マジック等のイベントの開催。ボランティアにご協力いただける方もメンバーの働きかけにより確保。

### ⑪実際のボランティア

- ・東海大学うえるふえあ(ボランティアサークル)
- ・こどもが好きで、現在もこどもと遊ぶボランティアにかかわっている。他の部員もこども好きが多いため、もし必要なら人数集めることが可能。
- ・こどもたちとカレーライスを一緒に食べてその後遊んでもらったりもできる。
- ・現在、コロナの関係で大学側から活動は自粛するよう言われている。個人で活動させてもらいたい。何人か興味を持っている仲間もいるとのこと。

## 7.みんなの食堂☆広畑視察

### ①コンセプト

こどもも大人もみんな楽しく、夕飯を食べよう！季節に合わせたメニューを食べ、レクリエーションをやって、みんなで暖かい時間を楽しもう！

### ②運営委員会

さまざまな5団体で構成されたボランティアグループ

### ③実施日

第2、第4金曜日

### ④予約方法

ネット予約。ホームページからQRコード読み取り申し込む。あくまで秦野市在住者が対象。

### ⑤場所

広畑ふれあいプラザ3F、和室

### ⑥日時

9月18日(金) 18:30～19:30

こどもだけの参加も可能で、19:30までに食堂までお迎えに来ることが条件になっていた。スタッフチェックし、確実に保護者へこどもを受け渡す。

### ⑦参加費

こども無料。大人300円。未就学児は必ず保護者同伴。

### ⑧定員

20名。当日は満員御礼。

### ⑨メニュー

カレーライス(おかわり有)、ぶどうゼリー、500mlのペット水  
スプーンは使い捨てのプラ使用  
アレルギー対応なし

### ⑩会場の様子

コロナ対策として、来場したら手洗い実施。その後受付。

## 令和2年度 研究活動援助事業①

こどもだけで来場7名、家族で来場4組、計20名。おもに小学生。  
食事はお盆に全てのった状態でスタッフがテーブルまで運んでくる。  
現在コロナの影響で、学生ボラの協力はなかった。  
食後はこどもがホワイトボードで落書きをしたり、和室でゲームをしたり、輪投げで遊んだりして過ごしていた。  
換気に配慮して窓全開。  
こども達が「ごちそうさまでした！おいしかったです！」と笑顔で下膳していた。

### ①その他

食材については農家からお米や野菜の寄付ある。  
コロナ後から衛生管理が厳しくなり、コロナ後に立ち上げる団体は条件をクリアするのが大変らしい。  
ユニフォームはエプロンと三角巾。  
看板は入口に立てかけ黒板に手書きで表記。  
当日は厨房に男性が1～2名、女性が1名、配膳に2名、代表者の前田氏が活動。

### 8.秦野市社会福祉協議会 事務局次長 佐藤美和子様との打合せ

秦野精華園旧ラポールセイカ棟を使用して、月1回、「みんなの食堂」開催に向けての相談を行う。

#### (1)アドバイス

- ・ターゲットをどうするか明確にしておく。
- ・法人として、ぶれないコンセプトが大事。
- ・スタッフには、最初コンセプトを大段的に発信しない方がよい(意見の相違など)⇒コンセプトを探っていく。臨機応変にしないでほしいが、ぶれないように。
- ・趣旨、狙いを整理⇒地域住民交流の場、ホーム利用者の参加有無など。
- ・みんなの食堂立ち上げの時は、メディアにも取り上げられ、社協からも最初は応援として派遣できるが、その後、伴走支援はしないので、運営面でしっかりしていないと後で困る。(基金10万円あり)

- ・広報として、チラシ・自治会掲示板・宿矢南自治会長への挨拶周知願いやなど。
- ・帰りの送迎(大根中・小)ママ同士で助け合いも⇒将来、障害者との関わりに繋がれば。

#### (2)他の秦野市内みんなの食堂状況

- ・みんなの食堂☆広畑では、遊び相手東海大生。
- ・西公民館⇒子供は子供。親と親の交流の場。
- ・南公民館⇒学習のみ…上智短大ボラとの連携が上手くいかず、食事提供がなくなった。

#### (3)その他情報提供

- ・世代間交流のためのきっかけ作りが難しい。意図的に世代間が混ざる機会を作る必要がある。勝手には混ざらないので、一緒にやる機会を主催者側で作る。⇒一緒に配膳するとか。
- ・途中で帰っても可にしておく。(時間制限なし)冬は早めに帰れるように配慮。
- ・地域活動に参加して頂ける方(ボランティア)にも、触れ合いはいいけど責任は取りたくない、しばらくはいたくないといった方も多いため配慮。
- ・東海大生ボラ、秦野精華園で関わっているの確保できることは利点。
- ・学校への協力依頼に関しては、その学校の校長先生の考え方しだい。(秦野市内は比較的協力的)
- ・社会福祉法人なので、目に見える場所作りを求められる。

### 9.秦野市市議会議員 吉村慶一氏との打合せ

みんなの食堂☆広畑代表、前田氏経由にて、朝食を見据えてのみんなの食堂を検討中との相談。大根公民館 7:30～を想定していたが、公民館が 8:30～なので学校に間に合わない。旧ラポールセイカ棟の場所のみ提供してほしいとの相談。

#### (1)みんなの食堂開催にあたって

- ・秦野市子育て総務課にて、申し込み受付等申請をすれば協力。
- ・ボランティアバンクとして、10万円の補助金とボランティア数名の派遣もできる。

## 令和2年度 研究活動援助事業①

### (2) 朝の「みんなの食堂」開催の意義

- ・「みんなの食堂」を夜に開催すると、交流がメインで、お楽しみ会的な要素が強くなってしまう。
- ・食事と遊びの両立は難しく、一番大事な安全確保がとても大変。

### (3) 朝の「みんなの食堂」想定

- ・基本、月～金曜日の週5回、6時～8時(7:30朝食)、スタッフ2人のローテーション、ご飯+汁+α、使い捨て食器使用し、1食100円の予定。
- ・理想は週5日だが、3日でも定期的にできれば可。
- ・旧ラポールセイカ棟を複数の団体が入れ替わる形で借用させてほしいとの提案もあり。

## 10. 秦野市みんなの食堂基金・ボランティアバンク 会長 佐野氏より提案

- ・旧ラポール棟全体を活用した多機能な施設。
- ・みんなの食堂は朝食提供で6:00～9:00の間。
- ・レストランは14:00～20:00の間、1階で夕食を提供する食堂として利用。
- ・図書コーナーの運営は、移動図書館新たんざわ号の会が行う。
- ・学習室は、7:00～9:00、15:30～20:00の間、2階で自習及び補修の場を提供するものとし、学生含む地域ボランティアで運営する。
- ・母子の遊び場に関しては、市立の「ポケット21」の誘致を検討。

## 11. 当園からの返答

吉村議員、秦野市ボランティアバンク佐野氏等から提案のあった多機能利用については、あくまで当園関係者が利用すべき建物であることを説明しお断りする。

旧ラポールセイカ棟の使用について、企画運営を手伝ってもらうことは可能であるが、あくまでも当園主体であることも伝える。

コロナ禍のため、密を防ぎ、滞在型にしないとといった点では、朝の「みんなの食堂」の開設について良い提案をいただけたと返答する。

## 12. 視察・視察候補(緊急事態宣言でなければ)

緊急事態宣言でなければ、三重県伊勢市・名張市の視察を2日間にわたり視察する予定であった。

メンバー視察報告として平塚にある教会「こひつじ食堂」視察。ここでも、コロナ禍の影響で、食事配布と資料の配布のみ行われている状況であった。

## 13. 活動のまとめ

地域貢献のために「みんなの食堂」の開設に向けて活動してきたが、コロナ禍でどのように展開していくかを考えた時に「密にならない」「滞在型にしない」→朝の「みんなの食堂」の方向性にシフトチェンジする必要性を、打ち合わせを通じて感じることができた。

夕食含む「みんなの食堂」の開設を目指してきましたが、夜に集まるリスクを考慮すると、朝食提供の「みんなの食堂」の方がスムーズな開設に繋がるのではないかと思えた。

今後、秦野市ボランティアバンクの協力を得ながら、朝の「みんなの食堂」開設にたずさわっていきたいと考えている。